

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和4年2月25日

事業所名 キッズルーム ロータス

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○			時間帯や状況に応じて個室、フロアの使い分けし、環境に配慮している。	
	2	職員の配置数は適切である	○				
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている			○		段差はあるが、スタッフが必要に応じて援助を行うようにしている。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○			活動に応じた遊具の設置をしている。またコロナ禍もある為、日々の消毒や換気を徹底している。	
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○			日々のミーティングから振り返りを行い、フィードバックをしている。	
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○			日々の業務改善や利用者の状態に合わせて環境を整えるよう配慮している	
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○				
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている			○		
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○			社内外での研修や虐待等の研修にも参加している。	研修委員会を立ち上げ、社内研修に力を入れ、職員の資質向上を目指している。
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○			ミーティングや個別支援会議、家族との面談を通して職員間で情報の共有に努めている。	
	11	子どもの適応行動の状況を把握するためには、標準化されたアセスメントツールを使用している	○				
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○				
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○				
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	○				
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○			児童に合わせて活動を考えたり、季節に応じた活動プログラムを提供し、固定化しないようにしている。	
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成している	○				
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○			日々のミーティングを行いながら役割を決めて対応している。	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○			ミーティングの中で支援の振り返りを行っている。必要に応じて職員間で情報を共有し、支援の統一化を図っている。	

適切な支援の提供	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	<input type="radio"/>				
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	<input type="radio"/>			定期的なモニタリングを行い、個別支援会議を行っている	
関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	<input type="radio"/>				
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	<input type="radio"/>				
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている		<input type="radio"/>			対象児童がいない。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている		<input type="radio"/>			対象児童がいない。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	<input type="radio"/>			必要に応じて連携をしながら情報の共有を行っている。	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	<input type="radio"/>			必要に応じて連携をしながら情報の共有を行っている。	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	<input type="radio"/>			発達障害支援センター等の開催している勉強会や研修会には参加している。	
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		<input type="radio"/>		今年度はコロナ渦の為、交流や児童館へのお出かけは控えていた。	今後は状況に応じて活動を検討している。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している		<input type="radio"/>			
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	<input type="radio"/>				
保護者への説明責任等	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている		<input type="radio"/>			
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	<input type="radio"/>			契約時に面談を行い、説明を行っている。	
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	<input type="radio"/>				
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	<input type="radio"/>			面談や送迎時に家族との情報共有を通して支援方法を一緒に模索したり、悩みなどの相談に応じている。	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		<input type="radio"/>			
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	<input type="radio"/>			業務や支援対して相談や申入れ等があった場合には迅速に対応を行っている。事業所間でも情報の共有化を図り、より良い支援が行えるよう対応している。	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	<input type="radio"/>			会報誌として日々の活動報告や新入社員の紹介など発信している。外部から来所された方には事業所内でどういう活動しているか課題や制作など活動概要を発信している。	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	<input type="radio"/>				

保護者への説明責任等	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○			活動やコミュニケーションを通してニーズの把握に努めている。ご家族とは送迎時や面談、連絡帳などを通して情報の共有化に努めている。	
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○			
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○				
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○			定期的な防火訓練や避難訓練を行っている。	
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認している	○				
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○			法人内で食物アレルギー対策を行っている。契約時や定期的な面談を通して情報の共有化に努めている	
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○				事故防止委員会を立ち上げ、事故やヒヤリとしたことに対し、対策と共有を事業所ごとに行い、事故防止に努めている。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○			事業所内で定期的な虐待に関するミーティングを行うようにしている。また研修会や勉強会に参加している。	
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	○				